

とおそばに... 小説家・永井紗耶子さん

木挽町の あだ討ち

永井紗耶子

「時代小説のあだ討ち」は、江戸時代の歌舞伎の芝居小屋を舞台にしています。書かれることになったとき、永井「わたしはもともと歌舞伎が大好きで、江戸を舞台にした他の作品も読んでいました(笑)」。そうしたら編集の方から「そんなにかよって、歌舞伎で書いてみませんか?」と提案をいただきました。ここのころ以前から「歌舞伎を舞台にしたい」という思いがあったので、まさに渡りに船という感じだったんです。



インタビュー中の永井先生。今回は川端康成ら多くの作家がカンヅメとなった事で知られる「新潮社クラブ」にてお話を伺いました

1977年生まれ、神奈川県出身。慶應義塾大学文学部を卒業後、新聞記者を経てフリーランスライターとなり、新聞や雑誌などで幅広く活躍。2010年、「絡繰り心中」で小学館文庫小説賞を受賞し、小説家デビュー。20年、「商う狼 江戸商人 杉本茂十郎」で、細谷正充賞、本屋が選ぶ時代小説大賞、新田次郎文学賞を受賞。23年、「木挽町のあだ討ち」で木三十五賞と山本周五郎賞を受賞。そのほか「大奥つとめよろずおつとめ申し候」「福を届けよ日本橋紙問屋商い心得」「横濱王」「女人入眼」など、常に注目の作品を送りだしている。

25年は、歌舞伎座での松竹創業130周年「四月大歌舞伎」で「木挽町のあだ討ち」の舞台化が実現。さらに映画化も決定し、26年2月から全国公開される。今回は「木挽町のあだ討ち」を中心に、原作のことから映画のことまで、いろいろお話を伺いました。

大好きな歌舞伎のことを書きたかった

直木賞と山本周五郎賞を受賞さ



(提供: 新潮社)

ちよつと 「おそばに...」

シリーズ141

小説家
永井紗耶子さん